



Special Interview
N_{on} **P**_{rofit} **O**_{rganization}
NEW Leaders

Pioneer

Pioneer は宮城県内で市民活動を行い、新しい
価値を社会に生み出している人達へのインタビ
ュー記事です



記念すべき最初のインタビューは名取市で国際交
流活動事業を行っている『国際交流ボランティア
ともだち in 名取』代表の相澤喜美氏です

Contact

Add: 〒981-1232 名取市大手町 5-6-1 名取市市民活動支援センター6号室

Tel/Fax: 050-1169-3537 URL: http://blog.canpan.info/tomo_natori/

地域の問題を解決しよう

『国際交流ボランティアともだち in 名取』の設立は今から3年前の2007年4月。それ以前の名取市における国際交流組織は市内の中学生をカナダ・オーストラリアにホームステイ派遣をする『名取市国際交流実行委員会』のみで他都市にみられるような『国際交流協会』がなかった。そのため外国人を受け入れる体制が地域内には十分とは言えず『実行委員会』のメンバーにとってこのことが不満であった。名取市に住むようになった外国人の中には、日本語がまだよく理解できない方も多く、そういう人たちに日本語を教え、地域活動の窓口となるよう組織の必要性を感じており実行委員のメンバーや、当時行政が実施した日本語講師養成講座の受講生が中心となり団体を設立した。

本当の意味での国際交流とは

現在の主な活動は毎週月曜日に開催している日本語講座、クリスマス会や旧正月などの季節イベント、行政窓口への付き添いといった生活支援事業、名取市内の名所案内といったことを行っている。最近特に好評だったイベントは「稲刈り体験」。稲作になじみの無い英語圏出身者や中国東北部出身者たちは初めての米の収穫に感激していた。また「一品持ち寄りパーティー」は外

国人にとって自分たちも主体的に参加しているという意識もあり、盛り上がるイベントである。「お金はかけずとも心が通った交流が来ている。」と相澤氏は語る。

会の活動の基本的な考え方は「ギブアンドテイク」。こちらから一方的に日本語を教えるのではなく異文化交流を通してお互いに高めあっていこうという気持ちで行っている。「外国人と交流し様々な文化に触れることで自分の視野が広くなり多少のことは動じなくなってきた。他人の価値観を認められるようになり人間的にも成長した。」と活動の個人的成果も感じている。

次のステージへ

現在は国際交流協会の設立を目指し関係者と協議を重ねているところ。今後の目標は、活動独自の収入源を見出すこと。行政からの助成金や寄付金のみでは活動資金として十分ではないためスタッフには実費程度は支払えるようにしていきたいとのこと。また対外的に認められるように法人格取得も検討している。

市民活動を続けるコツは「少しずつみんなで！ 自分も楽しく！」、「活動を続けることが苦しくならないように工夫しましょう。」と最後にエールを贈っていただきました。

Pioneer

さて次のインタビューは薬剤師が中心となって活動している『特定非営利活動法人ふあるま・ねつと・みやぎ』理事長の戸田紘子氏です。

Contact

Add: 〒981-8002 仙台市泉区南光台南 3-6-21

Tel/Fax: 022-251-0767 URL: http://www.geocities.jp/pharmanet_myg/



健康被害をなくすために

「薬剤師の主な仕事は“薬を通じて人の健康を保つ”こと。副作用が少ない形で薬の効果が出るように患者に理解を深めてもらうことが大事な役目です。」と戸田氏は言う。近年の健康ブームにより巷には機能性が期待される「健康食品」が溢れている。この中には単独使用でも副作用が起こる危険性があるものや、医薬品の効果に対して悪影響があり、治療の妨げになるものも存在する。しかし健康食品の有効性及び服用薬や治療への影響についての研究と正しい情報の蓄積は充分とはいえない。「健康食品」で健康を損なうことがあってはならない。そのためには一般生活者に正しい情報を提供することが必要である。そうした職業上の必要性から薬剤師の仲間内での勉強会を始めた。巷に氾濫している情報の真偽を見極め、科学的なデータを収集して、適切な情報を提供しよう。こういう思いから始まった勉強会を進めていくうちに、得られた情報を広く提供すべきと思うようになった。次々と新しい商品が出回っていく中で、健康被害を防ぐためには誰かが正しい情報を伝え続けることが大事。活動をより明確に責任のある立場で行いたいと思い、『ふあるま・ねつと・みやぎ』を設立。

医療従事者の役目

当初の活動は地域市民センター等での「出前講座」を開き一般生活者への医薬品及び食品を適切に利用するための支援を行っていた。このほか医療従事者（薬剤師、医師、看護師、栄養士など）がより良い情報提供や指導ができるよう、年4回ほどの研修会も行ってきた。今は健康食品や医薬品に関することで、疑問があったら専門家のところへ訊きに行きましょう、という啓発活動も行っている。医療従事者が情報の発信基地となり、健康被害の防波堤の役割を担おうと戸田氏は考えている。

新たな目標

昨年6月より改正薬事法が施行され一般用医薬品が三つに区分された。比較的风险の低い第三類医薬品、比較的风险が高い第二類医薬品、特にリスクが高い第一類医薬品の三種類である。販売の際の情報提供の法的義務としては、第二類は「努力義務」に留まり、第三類は法律上の規定は無いが、説明を要するものも多い。一般用医薬品は処方箋なしで購入でき、購入者が自己責任で使用するものである。「適切な使用には正しい情報が必要。」と戸田氏は強調する。今後は一般用医薬品に係る問題にも着手していき、国民の健康に関する政策提言も行っていきたいということであった。

Pioneer

Pioneer は宮城県内で市民活動を行い、新しい
価値を社会に生み出している人達へのインタビ
ュー記事です



3人目の **Pioneer** は、『特定非営利活動法人
蕪栗ぬまっこくらぶ』事務局長の戸島潤氏
です。こちらの団体は行政・地域住民との良
好な関係を基礎としたバランスのとれた運
営をしています。

Contact

Add:〒989-4301

宮城県大崎市田尻蕪栗字舞岳51

Tel:0229-38-1401 Fax:0229-38-1402

E-mail:makomo@aqua.famille.ne.jp

URL:<http://www5.famille.ne.jp/~kabukuri/>

行政・企業とは違う面から社会を担う

『蕪栗ぬまっこくらぶ』は宮城県大崎市
田尻にある蕪栗沼の環境保全を行っている
NPO。

「環境保全・自然保護活動には資金を要
するが、その資金を税金で賄うのは難しい。
それは行政の事業として税金を投入する場
合は議会の承認が必要であり、その過程に
は有権者の過半数の賛成が必要。しかし実
際に環境保全を行いたいという人は社会の
1~2割ほどしかいない。本来であれば100
ある分の10の資金を環境保全に使えばい
いが、民主主義のもとでは0か100となっ
てしまう。税金をたくさん納めて環境保全
するのではなく、私たちに資金を提供して
下さい。その資金で環境保全を行います。
というのが活動を始めた主旨です。」と戸島
氏は語る。

共生の心

当初の活動は、地域住民に蕪栗沼の価値
を伝える啓発活動。人の居住区に鳥がいる
のは貴重であり、全国・全世界に誇るこ
とであると説いて回った。啓発活動は“リア
ル”であることにこだわっている。「遊水
地・稲田・鳥それぞれに矛盾があり利害関
係がある。それらの内の一方的な利害を説
かない。それをしてしまうと地域に受け入
れてはもらえない。同じ問題を解決するた
めには双方の努力が不可欠。同じ土俵に立
ち、互いに生きるために必死ではないと利

害関係が生じず信頼も築けない。」

「地域とのコミュニケーションを円滑に
するためには、言葉だけではなく場を共有
すること。町内会の清掃活動や運動会に参
加して、地域のことを真面目に考える。そ
の地域に住んで保全活動を行うことが重要
です。」当たり前のことを言ってお互いの利
益になることをやろう、戸島氏はそう地域
と会話している。

世界の中のKABUKURI

今後の活動の柱と位置づけているのが海
外進出。蕪栗沼周辺の里山ライフスタイル
を海外に発信していきたいとのこと。「韓国
やイランにも同じ気候で蕪栗沼のような湿
地を有する地域があるので、そちらとの情
報と価値観の交流を推進していく。そうし
て地域の人々に自分たちの地域と世界の繋
がりを感じてもらいたい。そうすれば外か
ら見た自分たちの立場が分かり、進むべき
方向も見えてくるだろう。」

NPOの未来像

「良い人材集めて、良い仕事をして、た
くさんお金を貰おう、今後そういった姿勢
がNPOにとって必要。人材をNPOとい
う組織形態で雇った以上は、自分たちより
も恵まれた待遇にする。そのためには頑張
れば頑張った分だけ、自分たちに還って
くる様な仕組みを作ることが重要。」と締め
くめていただいた。

最後は、前身の団体『仙台市消費者協会』から数えると 33 年の活動実績を誇る『特定非営利活動法人仙台・みやぎ消費者支援ネット』（通称：セミコスネット）の代表理事小林達子氏へのインタビューです。

偶然の出会い

子供と一緒に見に行った仙台市市民祭り。その時、祭りに出店していた『仙台市消費者協会』との出会いが小林氏の消費者活動を始めるきっかけとなった。それまで小林氏は仙台市が開講している社会学級に通っており、学んだことを社会生活で実践したいと考えていた。“健康で安全な消費生活を自分たちで守る”という消費者協会の活動目的の中であれば即座に暮らしに役立つことが出来ると思い、『セミコスネット』の前身である『仙台市消費者協会』に入会した。

三つの柱

当初の活動は、主婦の感覚で暮らしの中でおかしいと感じたことを持ち込んでの活動。当時は輸入食品に関する問題や、第二次オイルショック後の灯油価格高騰といったことを取り上げて活動していた。活動が進むにつれ、消費者問題が複雑化し、主婦という生活者の感覚では消費者を取り巻く環境に対応するのが困難となってきた。そこで消費者問題関連法を中心に勉強しようという考えから、平成 8 年に「消費者問題リーダー養成講座」を立ち上げた。昨年は計 27 の講座を開き、消費者契約法から広告の見方まで消費者に関わる様々なテーマを取り上げて学習した。

「制服リサイクルバンク」は昭和 57 年から続いている活動で、その元となったのは各家庭のタンスに眠っている衣服や石鹸など生活用品のリサイクル即売会。この活動を続けるうちに学校制服リサイクルの需要を発掘。制服を近所でやり取りするのではなく、第三者が間に入り仲介する形でやり取りできると助かる、という保護者の声も

Pioneer

Contact

Add:〒980-0811 仙台市青葉区一番町 4-11-1 141ビル 5F

Tel/Fax:022-268-8308

あったため消費者協会が制服を仲介し、リサイクルバンクの活動が始まった。学校の指定デザインとサイズが合えば新品でなくても良い、その差額分で学習机や通学用自転車を購入できるということで家計を担う主婦には大変好評。仙台市には通勤族が多く、制服を揃えたら突然通勤になったので制服を寄付したい、ということや、TVで全国放送された際には、制服を送料負担でもいいから欲しい、という問い合わせが日本海側地域からもあった。ちなみにこちらで扱う制服の価格は新品の 1/10 ほど。クリーニング代と雑費程度を頂いており、使用目的は児童の学校での着用に限るとしている。

「悪徳商法撃退劇団リーダーズ」はリーダー養成講座の受講生で作った劇団で、もともと養成講座の一環としての位置づけであったが、現在では講座から独立した形で町内会等への出前講座を行っている。紙芝居や寸劇仕立てで詐欺の手口を消費者に分かりやすく伝えている。

変わらぬ想いを受け継いで

「消費者には権利もあるが義務（役割）もあり、両方が揃って初めてきちんとした社会になる。この社会を理想として活動をしてきている。権利を主張するだけではなく、消費者としての義務を果たしながら、みんなで安心して暮らしていける社会を実現するのがこれまでもこれからも変わらぬ目標。」と小林氏は語る。「気が付いた人から歩き出さなければならない。気が付いたら自分のできるところから歩き出して欲しい。」と激励の言葉を頂きました。

編集後記

～とあるインターン生の軌跡(Oct2009~Jan2010)

序

ひよんなことから始まった私のせんだい・みやぎ NPO センターでのインターン活動。初日に「何か企画を挙げてくれ」と言われてとっさに答えたのが団体代表者へのインタビューでした。それがこうして紙面になるとは感無量です。発行に至るまでには山あり谷あり笑いあり…、いろいろなできごとがありました。団体とのやりとりがうまくいかずアポイントがなかなか取れなかったり、いざ取材に行ったら事務所の場所がHPに載っているのとは違っていたり…。“おちこんだりもしたけど私はげんきです”といったところです。

破

このインターンシップでは普段生活してはなかなかお会いできない方々の話をお伺いすることができ、自分の視野が広がりました。医薬品の適正使用方法、人類と自然との関係性、消費者の義務と権利、ダイバーシティとは何かなどなど勉強になりました。どの団体の代表者もおっしゃっていたのが活動の継続性、すなわち次の世代をどう育てていくかということでした。今回インタビューさせていただいた方々は市民活動の黎明期を創出した方々であり、次の段階にどう移行していくかということが共通の関心のようなのです。

急

NPO法が施行されて 10 年以上経ちました。しかしNPOに関して何の知識・関心も持っていない人が多々いるのも事実です。インタビューの中でお聞きしたことですが、自分たちの活動が生み出す社会的価値の必要性をアピールする、ということが次の段階へ移行する鍵となりそうです。Shareholder Relations ならぬ Social Relations の巧拙がプレゼンス増大に繋がるのでしょうか。って経営学書みたいになってしまいましたね。

詠

記事の完成は多くの方々の協力ぬきには決してできませんでした。お忙しい中インタビューの時間を割いていただいた各団体代表の方々、私をインターン生として受け入れてくれたせんだい・みやぎNPOセンター職員の皆様方、誠にありがとうございました。無事この企画を以って私のインターンシッププログラムは終了いたしました。

企画・取材・編集・文章レイアウト・表紙デザイン：昆野 この 明知 あきとも

発行：特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター